

提言第12号 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析

事例3

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代、人工呼吸管理、血液浄化療法中、血液凝固障害がある患者。
- ・ 両側胸水貯留に対し、救急科で左胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にCT 画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、左第 5 肋間中腋窩線を選択。
- ・ 試験穿刺の実施は不明。胸膜を穿破し、漿液性の排液を確認。カテーテルを挿入したが、排液の流出不良のため抜去し、術者を交代。穿刺経路を作成するが、カテーテルが胸腔内に入らず、内套針を進めてカテーテルを挿入した。内套針を抜いたところ拍動性の血性排液あり、直後に心臓損傷を疑い、カテーテルをクランプ。超音波検査で心タンポナーデと判断し、緊急開胸手術を実施するが、当日死亡。
- ・ 死因は、心臓（左心房）損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai） 有、解剖有。